

## 茅の輪くぐり (6月22日・酒垂神社)

装束に身を包んだ平体とわ和くん (宇出津小2年) と加藤宮司に続き、氏子ら約40人が直径約3mの輪をくぐり、けがれを取り除いて心身が清らかになるようにお祈りしました。



広報のと  
第113号

平成26年7月1日発行

■発行：能登町 ■編集：広報情報推進課  
〒927-0049  
石川県鳳珠郡能登町宇出津新1字197番地1

☎：0768-16211000(地)  
能登町URL：http://www.town.noto.lg.jp  
Eメール：info@town.noto.lg.jp



# 千尋の浜草

加藤三千雄さんがたどる先祖・吉彦の鈴屋入門

旅日記⑦ 5月18日 能登の里・神道の人にあう



①「鈴鹿山の鏡岩」(三重県指定特別天然記念物)。吉彦は八日市から岩を仰ぎながら、一路目指してきた。②鏡岩から見下ろした国道1号線鈴鹿峠。連続するカーブから陰しさがわかる。③現在の田村神社の鳥居。田村神社は「坂上田村丸」の社を移転したものと神社の縁起により伝えられている。社は鈴鹿峠の悪鬼退散、山賊退治を願って勧請された。

(写真はすべて加藤さん撮影。)

**現** 在の滋賀県を進み、琵琶湖を右に見ながら米原に着きます。鳥本(鳥居本宿か)は街道の分岐点で大変賑やかです。高宮(彦根市)には小野小町の墓とされるものがありますが、諸説あってあてにはできません。道行くほどに多くの人と道連れになります。ひとりの女性が吉彦の伊勢行をうらやましく思っ、同行したいと頼み込んできました。さらに休憩所の木陰から、少し変わった風体をした人も「自分も仲間」と頼みます。出身を尋ねると、宇出津からわずか2、3里の神道(柿生)の人。吉彦は驚き、さすがに知らんふりはできず同行を許して、この日は4人で八日市で泊りました。

翌19日、小さな森の中にある「坂上田村丸」の社やしろに着きます。このあたりが近江と伊勢の国境です。しばらく行くと鈴鹿峠です。鈴鹿山は3年前の10月8日の夜、富士山、音羽の滝(清水寺)とともに夢に見たもので、心にかけてきたものです。その鈴鹿明神を拜ませてください。言葉につくせないほどうれしく感じます。

鈴鹿山 もとみし夢の面影を  
けふこそあふげ 神の恵みに

「鈴鹿明神」は「片山神社」というようです。現在は荒れ果てた無人の社ですが、訪れると神気が溢れています。自然に損壊してゆくいくつかの建物跡、失った本殿跡地、どれを当時の面影を思い描かせるものでした。



寛政の旅人：加藤吉彦 (かとう・えひこ)。寛政9 (1797) 年、36歳の時、伊勢の本居宣長の元を訪ね入門。酒垂神社 12代宮司。  
平成の旅人：加藤三千雄 (かとう・みちお=写真)。現酒垂神社宮司。9代前の先祖、吉彦の道中を実際にたどり、伊勢松坂で吉彦と宣長の交流の跡を目の当たりにした。

「広報のと」7月号の印刷費は一部当たり24円です。

